

キャンプ

2008年10月16日(木) 15:30～

秋学期、第1回目の「キャンプ」は、関内から。グループワーク（旅ガイドの作成）や卒業制作の展示を意識しながら、きょうは、以下の2点について考え、みんなで話合ってください。

- ・ひとを何らかの場所（ハブニング）にいざなうということは、どういうことか。（それは、どのように実現されるのか。）
- ・ひとに何かを見せる（そして、魅せる？）ためには、どのような創意工夫が求められるか。（物理的な設営だけでなく、「おもてなし」もふくめ、来場者の行動やコミュニケーションをどこまで「読む」ことができるか、など。）

すすめかた

■上記の2点を考えながら、「横浜トリエンナーレ 2008」を自由に鑑賞してください。

・どのように見るか、何を見るか、作業の時間配分等については、すべてグループにまかせます。あとで「ふり返り」のレポートを書くことになるので、大まかな流れ（経路など）は記録しておくといいでしょう。

■きょうの夕方までに、以下の作業をすすめてください。

（1）きょうの「キャンプ」の様子を撮る。

・インスタントカメラで、グループワーク、「キャンプ」の様子を撮影する。きょうの「キャンプ」終了時まで、すべてを撮りきることに。

※展示会場をはじめ、公共スペースにおいても、いわゆる「撮影禁止」の場所があるので、撮影にはじゅうぶん注意すること。

（2）下記の要件を満たす「音声コンテンツ」を作成する。

- ・だいたい3分程度にまとめる。
- ・「横浜トリエンナーレ」に行く前に聞くことを想定した内容であること。
 - 思ったとおりのことを紹介（ただし、PRやダメ出しは目的ではない）
 - ネタバレは避ける
 - その他、リスナーのことを考える（リスナー像をある程度想定してみる）

つまり、その音声コンテンツを聞くと、「行きたくなる」
聞いてから行くと、「楽しくなる」「何倍も豊かな経験ができる」

→ そのためには、何を語ればよいか。...を現場で考えてみてください。

全員の前のプレゼンテーションは、おこないません。

※ただし、回収したカメラの写真および音声は、公開します。（つまり、公開されることを前提に、写真や音声の内容に注意すること。）

■提出

10月16日(木) 18:10ごろ カメラとボイスレコーダーを回収します。
受け渡し場所は、途中で調整しましょう。

※別途、「ふり返り」のレポートを書いてもらいます。これについては、メールでお知らせします（提出期限は、およそ2週間後を想定）。